

英国精神医学会誌 (British Journal of Psychiatry) 2006年 188巻 223～
228頁

治療を受けた統合失調症患者の生涯自殺率：

1875～1924年と1994年～1998年のコホートの比較

D. ヒーリー (D. HEALY)、M. ハリス (M. HARRIS)、R. トランター (R. TRANTER)、
P. ガッティング (P. GUTTING)、R. オースティン (R. AUSTIN)、G. ジョーンズ-
エドワーズ (G. JONES-EDWARDS)、A. P. ロバーツ (A. P. ROBERTS)

背景 統合失調症患者の自殺率に対する関心が最近かなり高まっている

目的 クロルプロマジン登場以前の時代の統合失調症患者の生涯自殺率を明確にし、最近の生涯自殺率と比較する。

方法 1875年から1924年までの、ノース・ウエールズ精神病院への741名の統合失調症入院患者及び1303名のサイコーシス（精神病症状）入院患者と、1994年から1998年までの北西ウエールズに於けるサイコーシス初回入院患者との間の自殺率及び自殺企図率を比較した。

結果 1875年から1924年までの統合失調症患者の自殺率は100,000入院・年 (hospital years) 当たり20件で、生涯自殺率は0.5%以下である。すべてのサイコーシス患者の自殺率は100,000入院・年当たり16件である。現在の統合失調症及び他のサイコーシス患者の自殺率はそれよりも20倍高いと思われる。

結論 これらの発見は統合失調症患者の自殺率の増加を示唆している。

利害関係についての宣言 D. H. はすべての大手製薬会社と繋がりがあり、向精神薬がからんだ訴訟事件に於いて専門家証人になった経験がある。A. P. R. と R. T. は、ほとんどの大手製薬会社のコンサルタントだったことがあり、それらの会社から教育支援を受けた事がある。

統合失調症の患者の生涯自殺率は10%であるとコミュニティ・ケアが始まる以前も以後も広く言われている (Meltzer et al, 2003)。しかしながら、コミュニティ・ケアがなかった時代の研究によると、生涯自殺率の推定は0.03から18%までと幅があり

(Miles, 1977)、サンプル数が一番大きいデータでは1-2%のリスクということになっている。ということは、現代の統合失調症の治療が自殺率の増加に結び付いている可能性がある。自殺率が増加したのは、脱施設化のせいだとか、患者の自己洞察力が高まったせいであるとか、治療での服薬量が足りなかったからであるとか、治療の副作用であるとかいろいろと言われてきた (Caldwell & Gottesman, 1990)。北ウエールズに於いて、メンタル・ヘルス・サービスの利用状態を研究するのに特に有益な歴史的データベースが出来上がったので、この問題に光を当てるのに役立つかもしれない (Healy, et al, 2001)。

(日本語訳：笠井裕貴)